

香りを楽しむ本

10月30日は「香りの日」ということをご存知でしょうか。“香り”にはリラックス効果や開運効果があるほか、贈り物やインテリアとしても親しまれているなど、目的や場所によってその楽しみ方は様々です。そこで今回は、香りを身近に感じられる本をご紹介します。

1冊目は、日東書院本社『心と体に効くお香のある生活』です。

お香と聞くと、仏壇やお寺などの仏事をイメージする人も多いことでしょう。けれど、昨今の“暮らしを大切にすること”という観点から、世代を問わずお香にハマる人が増えています。本書では、「沈香^{じんこう}」や「白檀^{びやくだん}」など香料の組み合わせはもとより、香炉や匂い袋などの香具のほか、「印香^{いんこう}」や「塗香^{ずこう}」など焚き方の作法まで丁寧に教えてくれるので、初心者でも気軽に始められます。また、日本最古の香木や戦国武将が愛した香炉など貴重な品々が収蔵されている寺社仏閣や、「香り」をテーマとする世界の美術工芸品を展示している博物館など、一度は行ってみたいおすすめのお香スポットも紹介しています。お香の世界に触れて、心も体もじんわり癒されてみませんか。

2冊目は、生活の木/著『生活の木アロマワークショップBOOK』です。

ナチュラルコスメやアロマクラフトを作る際、主に精油やフローラルウォーター、ドライハーブなどが使われます。精油の芳香はほのかに香るものからしっかり香るものまで千差万別で、植物の種類や抽出部位によって7つの系統に分類されます。どれを選ぶか迷ったら、初めは直感で好きなものを、慣れてきたら用途や効能から選んでみるのもおすすめです。

本書では、四季に応じたアロマレシピを「スキンケア」「メンタルヘルスケア」「ホームケア」の3つのテーマ別に紹介しています。気に入ったアロマで自分だけのオリジナル雑貨を作ってみるのも良いですが、大切な人への心を込めた贈り物にしても喜ばれそうですね。

ゆらぎやすい季節の変わり目こそ、ほんのり漂う天然の香りで日々の暮らしに彩りを添えてみてはいかがでしょうか。

3冊目は、小瀬木麻美/著『調香師レオナルド・ヴェイユの香彩ノート』です。

香りに色が見える「色香共感覚^{しきこう}」をもつレオナルドは、“名画から得たインスピレーションで調香する”という斬新なアイデアで世界中のセレブを虜にした天才調香師。彼の香りは艶やかで幻惑的と称され、残り香でさえも人を魅了すると噂されるほど。しかし、そうした鮮烈なデビューを飾って以降レオナルドが表舞台に出てくることはなく、依頼主の為だけの唯一無二の香りを演出する「プライベート調香師」の道を選びます。無類のセンスと共感覚で色を香りに変えていく手さばきは、さながら事件の謎を紐解く探偵のようです。

色彩、香り、紡がれる言葉や想いを五感で楽しめる優雅で芳しい小説をお楽しみください。

今日ご紹介した本の他にも、香辛料に関する本や、自ら香水を調香してみる本などもあります。ちょっとした息抜きに、いろいろな香りを楽しんでみてはいかがでしょうか。